

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071300729		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウィズライフ別府	(ユニット名	1階 桃)
所在地	福岡県福岡市城南区別府3丁目7-18		
自己評価作成日	平成23年8月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成23年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご入居者に想いのままに暮らしていただけるよう、家庭的な雰囲気作りにも努めている。</p> <p>・地域住民の一員である意識を持ち、ご入居者の生活がホームの中だけで完結しないように、積極的に地域に溶け込めるよう活動している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2ユニットのホームである。開設時から近所の方々から「将来の住み家」と言ってもらえており、包丁研ぎや、草取り、玄関先の飾りなど協力していただいている。また、利用者の家族が昼食前に、誰もが口ずさむことができる曲をピアノで演奏することがあり、ユニットを越えて楽しめている。職員は利用者の1日体験を行ない利用者の気持ちが理解できるように、自己満足なケアにならないように自己研鑽をしている。地域や家族と共に協働しながら認知症ケアに取り組んでいるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・『自分らしく最後まで』を理念に掲げており、管理者は職員の入社日研修時に理念の説明を行い、会議やミーティング前には全員で唱和している。	職員には入社時に理念を説明している。日々の業務の中ではこういう働きかけが理念とつながる事と確認しながら、悩んだときは立ち止まり、利用者からは「自分らしい生活」を教えてもらい、ケア会議でケア内容を振り返りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・月に1度、利用者と一緒に地域清掃やふれあいサロンに参加している。 ・食進会にも参加し料理のアドバイスをいただくなど、地域交流を深めている。	利用者の能力に合わせ地域清掃には職員と一緒に参加している。公民館で行われている食進会には職員が参加して、郷土料理等を学び、食事作りにかかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域行事等に参加したり、ホーム行事に参加していただき、理解を深めていただけるよう交流している。今後は介護予防教室も開催していく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご入居者代表、ご家族、民生委員、いきいきセンター職員、スタッフが参加し、活動報告やその評価、取り組み状況を話し合っている。 ・今後の地域との取り組み、アドバイスを含めて意見交換しサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催している。認知症介護の相談を受けたり、高齢者の食事提供に関するアドバイス等もあり、参加者から地域行事のお誘いなどを受け有意義な意見が多くサービスの向上に活かされている。今後はふれあいサロンで介護予防教室を開催する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・公民館行事への参加や民生委員さんとの関わりを深めている。 ・市主催の研修実習生の受け入れを積極的に行うなど、関係を深める取り組みをしている。	後見人制度を活用している利用者もいるため、地域包括支援センターとは電話で連絡を取り合っている。市主催の研修生の受入や、介護保険の更新手続き等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・毎月のミーティング時に抑制廃止委員会を行い、確認をしている。 ・玄関は、夜間以外は施錠しておらず、気軽に入力できる環境を整えている。	抑制廃止委員会では気付かないうちに言葉での抑制をしていないか、自分に置き換え、聞いた周りの職員はどう感じたか等を話し合っている。玄関は施錠せず地域の方や家族が気軽に訪問をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・内部研修カリキュラムに含まれており、知識を共有できるように努めている。 ・リスクマネジメント委員会を設置しており、毎月のミーティング時に確認し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修カリキュラムに含まれており、学ぶ機会を設けている。 ・入居契約時には必ず成年後見制度の説明を行い参考資料等もお渡ししている。 	<p>内部研修で学び、権利擁護に関するパンフレットは家族に渡せるようにコピーをして準備している。また、家族会等でも説明をして、必要な利用者には管理者が相談を受けて制度の活用ができるようにしている。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約前に見学と相談時間を設け、説明を行い、体験入居をしていただいた上で、契約書に順じた説明を再度行い、理解と納得を図るようにしている。 		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時やサービス担当者会議、運営推進会議にてご意見をいただき、職員間で改善策を検討し、結果を記録・報告している。また、ケア担当者の評価アンケートも実施している。 ・苦情相談窓口として、施設の窓口、公的窓口を重要事項説明書の中に明記し説明している。 	<p>市内に住所地を持つ利用者も多く、ホームでのイベント等には家族にも参加してもらい、意見等を言い易い環境をつくっている。「外出は頻回にしてほしい」等の意見や、職員の接遇に対する不満等、出された意見は職員間で検討し、運営に反映させている。</p>	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングや毎日の申し送り意見や提案を聞く機会を設けており、ブロック会議にて管理者から代表者へ報告しアドバイスもらっている。 ・定期的に職員面談を行い、個々の要望・目標について一緒に考える機会を設けている。 	<p>代表者や管理者は、職員と個別に定期的に面談を行い、意見等を受け入れている。ケアに対する悩みから、勤務形態の相談等を個々に聞き入れ、反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、自己評価を行い、内部人事制度に基づき面談を実施している。 ・各自の年間目標を達成できるよう一緒に考えアドバイスを実施している。 		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・採用にあたっては、性別、年齢等関係なく、一日体験をしてもらいホームの様子を見てもらっている。 ・職員の特技や趣味を、業務や行事で活かすほか、休日希望をとり、働きやすい環境作りにも努めている。 	<p>採用にあたっては一日体験をしてもらい、ホームの雰囲気を見てもらい決定している。性別や年齢では採用対象から排除していない。障害をもつ職員も採用されている。折紙、エレクトーン、ピアノ、ウクレレ等、職員の持っている特技を業務に活かしている。</p>	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体で研修や外部研修に参加し、入居者の尊厳について確認している。 ・ホームではマナーチェックや入居者体験を実施するほか、言葉遣いや対応等で気付いたことは個別に指導している。 	<p>研修に参加し学ぶ機会を持っている。職員は「1日利用者」を体験する中で、動くことができない、言葉を伝えられない利用者の気持ちを汲み取り、業務優先でなく、利用者の人権を直に学んでいる。体験の中で気づいたことは、日々のケアに反映させている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・人事考課にて職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、法人全体の研修を定期的に開催している。 ・外部研修の希望をとり、積極的に学ぶ機会を作っているほか、事業所内でも勉強会を実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修で他事業所との交流の機会を持つほか、グループホーム協議会のブロック研修にて、意見交換、勉強会等に参加させていただき、事業所を振りかえりながら、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居相談時にご本人と面会を行ったり、体験入居やショートステイを通してご本人の不安、要望を傾聴し、信頼関係を作ることに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご本人の生活歴や現在の心境、それに対してのご家族の心情などを伺いながらホームの理念、指針等をお伝えし、信頼をいただけるよう努めている。 ・待機等ですぐにサービスを利用できない場合は、定期的に手紙や電話連絡を行い、不安の把握、解消に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に必要な支援を見極め、様々なサービスの情報提供に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の生活歴を把握し、生活リズムを大切にしながら自立支援を念頭に、ご本人の出来る事はしていただくなど、理念に掲げている『喜怒哀楽を共有し助け合いながら生活を共にする』関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・サービス担当者会議や面会時に近況報告を行い、意見や助言をいただきながら、共にご本人を支えていく支援者としての関係作りに努めている。 ・行事などにはご家族にも参加していただき、同じ時間を共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご本人やご家族から知り得た情報や普段関わりの中で、大切にされていることを実践したり、大切な人と連絡を取ったり、また来訪できるような環境作りを努めている。	ホーム入居前の生活状況を把握して、馴染みの関係が途切れないようにしている。市内に居住していた利用者も多く、友人知人が多く訪れている。ホームとしては訪問者が緊張せずに、自然な感じで面会ができる様に配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・寛がれる場所の提供、席の工夫、会話の橋渡し等、個々に合った関わり合いを大切にしている。 ・ホーム内外でのイベントを通して、ご入居者同士が交流を図れるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・法人内の他事業所へ転居されたご入居者へは、行事等を通して交流を図っている。 ・契約終了されたご家族がボランティア登録され、いつでも立ち寄れる関係作りを実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりからアセスメントをとり、ケアカンファレンス時にご本人の立場に立って想いを話し合い、ケアの方向性が統一できるよう努めている。	毎日の接遇の中で、利用者の表情や行動から思いを把握している。困難な場合や思いが伝わりにくい場合は家族から聞き取ったり、職員間で話し合っその人らしい暮らしができるように検討し、実践に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人やご家族からの聞き取りを行い基本情報として各スタッフが把握に努めている。また、新たに得た情報も追加し、申送り、カンファレンス等で情報共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の関わりからアセスメントをとり、申し送りにて情報交換を行うなど、総合的に把握できるように努めている。 ・場面に応じたケアのポイント等も職員間で共有できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族の希望、意向をお聞きし、ADL、精神面、主治医からの助言を参考に担当者を中心にして介護計画を作成している。	利用者、家族の意向や希望、かかりつけ医、主治医からの情報等を基に職員間で意見を出し合っている。利用者本意の計画になるように職員間で話し合い、担当者が中心になって、現状に即した計画や見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の状況を記録に残し、気づきやケアのポイントを申し送り時に確認、検討するなど、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状態が変わったら、その時のニーズに合わせて、食事、入浴時間等、臨機応変に対応している。 ・介護保険ではカバーできない部分にも対応できるようサービスを整えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・毎年消防署の方の協力のもと、救命講習、避難訓練をご入居者も交えて地域と共に実施している。 ・毎月の廃品回収、公園清掃では、民生委員、地域の方のご協力をいただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族、ご本人の希望にて、かかりつけ医は其々である。ご家族も含む情報共有を行うことで適切な受診に繋げている。 ・協力医の往診は月に2回あり、ご入居者の体調変化に対応している。	利用者の多くは、ホームの協力医の受診を希望しているが、入居前からのかかりつけ医の利用者は3名で受診時は家族が同行している。協力医は月2回と週1回の歯科医の診療があり、利用者が安心して医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携による看護師訪問の際に日頃の状況等を報告し、助言をいただくほか、職員の疑問解決についても相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・主治医への相談、報告を定期的に行い、情報交換に努めると共に連携を図っている。また、入院時にもご家族を中心にホームと病院との情報収集に努め、主治医への報告、助言のもとに早期退院に向け対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・サービス担当者会議で、終末期の意向等を確認している。 ・ご本人、ご家族、主治医、職員で終末期であることの確認後、重度化に関する指針に基づき、ご家族へ説明し、ご家族の確認と同意書を交わしている。	入居時にホームの方針を説明し、利用状況に応じて同意書を交わしている。現在までに4名の看取りを行っている。職員は、重度化した際の対応や終末期の取り組みに対して方針を共有し、家族が安心して利用できる体制ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年に1回 普通救命講習会を開催し、心肺蘇生法などを習得している。 ・事業所にマニュアルを設置し、急変、事故発生時に備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回の火災避難訓練のほか、地震時や風水害についても勉強会等を実施し、避難方法を確認している。 ・地域の避難訓練にも参加し協力体制を築いている。	年2回(1回は消防署主体)ホーム全体の避難訓練を行っている。その他防災係を置き、災害の種類別訓練を取り入れている。スムーズに実施できない場合は見直している。職員の緊急時への対応、ホームの備蓄や地域の協力体制もできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ミーティングや認知症ケア会議にて、抑制や虐待の観点から振り返りを行い、実践に繋げるようにしている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に言葉掛けや態度に配慮している。時には職員間で気づき合うこともあり、ミーティングや認知症ケア会議で接遇について話し合い、実践に向け取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の生活の中で利用者に自己決定を促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日の過ごし方をご入居者に選んでいただけるよう、確認をしている。アプランに沿って、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・馴染みの理美容(訪問含む)を定期的にご利用している。 ・積極的におしゃれをされない方へは、お化粧品やリップクリームなど、個々に合ったおしゃれを行い、関心を持っていただくような支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・料理が得意な方は一緒に準備を行い、苦手な方には一緒に盛り付けや味見などをいただいている。 ・食事中は職員も同じ席につき、会話や音楽など、楽しく食事ができる雰囲気作りを行っている。	入居者の娘さんのピアノ演奏(ボランティア)と歌が流れる中で、利用者も一緒に歌ったり、盛り付けやテーブル拭き等を楽しんでいる。食事は、職員と一緒につき、利用者それぞれに応じた介助を行い、安全に楽しく食事が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・職員が献立を立て、カロリー計算は特に行っていないが、運営推進会議や校区食進会でいただいたアドバイスを基に献立を工夫している。 ・全ご入居者の食事の記録と、必要に応じて水分チェックを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時、食後はもちろん、必要に応じて食前の口腔ケアもやっている。 ・週に1度の歯科往診で、口腔ケアのアドバイス等もいただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・できるだけトイレで排泄できるよう、時間やご入居者の表情、言動を見ながら定期的にトイレに行くようにしている。	日中はトイレ誘導を目標としているが、夜間のみおむつ使用者が数人とリハビリパンツやパットを使用している人もいます。入居時にはリハビリパンツを使用していた人が職員の声かけなどで布パンツに改善された人もいます。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘予防として水分摂取を心がけており、牛乳やリンゴジュース等、個々に合った水分を提供している。 ・便秘になりやすい方には、日頃のスキンシップとして腹部マッサージや温パックを行い予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ご入居者の希望に合わせて入浴の支援を行っているが、体調等考慮して職員が判断する事もある。 ・音楽が好きな方には、浴室にラジカセを置き音楽を聴きながら楽しく入浴していただくなど工夫している。	日中は毎日入浴できる体制ができており、夕食後の入浴希望者もいます。基本的には週2回から3回としているが、拒否される方には、声掛けを工夫したり、時には好きな音楽流したりして、楽しく入浴ができるような工夫がなされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ご入居者の状況に応じて休息を促す等の支援を行っている。 ・日中の活動を充実させることと、室温、水分補給にも配慮することで夜間、気持ちよく眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに薬の詳細を綴り、全職員が確認できるようにしている。 ・与薬時は必ず複数人の職員で、名前、日付、時間の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・調理、掃除、洗濯など、それぞれのご入居者に合った役割がある。 ・地域行事への参加やレクリエーションを通して、季節を感じていただきながら、楽しみの支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日常の散歩や買い物のほか、地域行事等で普段行けないような場所へもご家族や地域の方の協力を得ながら外出を楽しんでいただけるよう支援している。	天気の良い日は毎日、散歩をしたり、誕生日には希望者に外食計画を立てている。食料の買物には順番で同行し、個人レクリエーションを兼ね、戸外へ出かける時間を大切に支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・財布を持っている方は、ご家族と連携をとりながら、ご本人が購入したいものを購入していただいている。 ・財布を持っておられない方は、買物の際に職員と協力して支払う事で、支払いの実感を感じていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・事前にご家族の都合をお聞きしており、ご本人の希望時には連絡できる体制を取っている。 ・手紙や贈り物が届いたときは、お返事を書いていただいたり、お礼の電話をかけていただくなどの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・音楽を流したり、温度調整に努め、居心地の良い空間作りをしている。 ・テーブルやソファの位置などご入居者の要望に合わせて移動し、気持ちよくくつろいでいただける環境を作っている。	広い玄関に続いて明るいリビングになっている。コの字型にソファが置かれ、書画や季節を感じさせるススキが活かされている。木目調の広い廊下、和紙で貼られた電球が落ち着いた空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング内に数カ所ソファを配置し、仲の良いご入居者同士で集まったり、ゆっくりくつろいでいただく環境を作っている。 ・1階、2階と自由に行き来が出来ており、思い思いに過ごせている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には使い慣れた家具や、ご家族の写真を用意していただき、居心地良く過ごしていただけるようにしている。	使い慣れた家具や大切な仏壇、写真等を持ち込み、利用者が落ち着いて過ごせるように支援している。ベッドが馴染まない人にはマット使用したり、本人手作りの表札を入口に掛けたりして本人の思いを大切に居室への配慮が行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室前には表札等を使用し、ご自分の部屋だと分かるようにしている。 ・トイレの場所を探される方もいらっしゃる為、入口に分かりやすく張り紙をしている。		